



弦楽合奏団

エテルニータ

第10回コンサート

とちぎ福祉プラザ

2013年6月30日(日) 開演2:00pm
(開場1:30pm)

曲目解説

パーセル 「妖精の女王」組曲

シェイクスピアの戯曲「真夏の夜の夢」を原作とした全5幕のセミオペラ「妖精の女王」は、1692年ロンドンで初演されました。セミオペラとは演劇とオペラを合わせたようなもので、普通のオペラよりも台詞が多いのが特徴です。パーセルの作品には他に「アーサー王」「テンペスト」「インドの女王」などがあります。

あらすじは大変込み入っており簡単には説明出来ませんが、要するに森の妖精の王オベロンとその妻タイタニア、複数の村の若者たちのカップルや、芝居を上演しようと森の中で練習に励んでいる職人たちが、妖精パックの手違いがもとで入り乱れる一種のドタバタ劇です。その魅力的な題材ゆえに多くの作曲家が曲を作っていますが、メンデルスゾーンの不随音楽やブリテンのオペラは特に有名です。

この組曲は、ウィリアム・レオナルド・リードという人が作品中の舞曲やエアなどを演奏会用に組み合わせたもので、いずれも1分から3分位の短い小品となっています。

第1組曲

- I プレリユード II ロンドー III ジーグ IV ホーンパイプ
V 妖精の踊り

第2組曲

- I エア II 猿の踊り III 夜の従者たちの踊り IV シャコンヌ

バッハ 「管弦楽組曲 第2番 口短調 BWV 1067」

バロック時代の組曲というのは各国の舞曲を寄せ集めて一つの作品としたもので、バッハは4曲の管弦楽組曲を残しています。4曲の中では「G線上のアリア」で有名な楽章をもつ第3番が最も有名ですが、この2番もフルート独奏を加えた優雅な響きをもつ名曲として、たびたび演奏されています。

冒頭に他の曲に比較すると規模の大きな序曲が置かれており、そのためかバッハは曲全体の名称を「組曲」と呼ばず「序曲」と名付けました。緩-急-緩の3つの部分からなるフランス式様式で書かれており、中間部はリトルネロ形式(合奏と独奏が交替する当時のコンチェルト様式)にフーガを加えるという高度な作曲技法が用いられた、聞きごたえ十分の序曲です。

フランスの舞曲であるロンドー、ブーレー、メヌエットや、スペインのサラバンド、ポーランドのポロネーズといった舞曲が続き、終曲には通常のジーグに代わりパディヌリーが置かれています。パディヌリーとは、フランス語で「冗談」とかく「戯れる」といった意味で特定の舞曲ではありませんが、バッハはフルートのもつ軽やかな音色を生かすために、あえてこの楽章を選んだのかもしれませんが。

- I 序曲 II ロンドー III サラバンド IV ブーレー V ポロネーズ
VI メヌエット VII パディヌリー

ドヴォルザーク 「弦楽器のためのセレナード ホ長調」

スメタナやヤナーチェクと並ぶチェコの大作曲家ドヴォルザークの作品は、その民族性豊かな親しみやすい旋律ゆえに我が国でも大変人気があります。このセレナードは、1875年ドヴォルザーク33才の時の作品で、わずか11日間という短い期間で仕上げられましたが、チャイコフスキー、スークのセレナードと共に「三大弦楽セレナード」と呼ばれているほどの名曲です。ちなみにドヴォルザークには、3年後の1878年に書かれたもう一つの「セレナード」がありますが、これは管楽器のために書かれています。

- 第1楽章 モデラート 第2楽章 テンポ・ディ・ヴァルス 第3楽章 スケルツォ・ヴィヴァーチェ
第4楽章 ラルゲット 第5楽章 アレグロ・ヴィヴァーチェ

どの楽章も親しみやすい魅力的な旋律に溢れていますが、ショパンのワルツのように美しい2楽章、映画のワンシーンに効果的と思われる夜想曲風な4楽章が特に聞きどころ。チャイコフスキーのセレナードと同様、終曲のコーダの部分に第1楽章の初めの旋律が登場して、全曲の統一感が与えられています。作品全体を通して、各主題がカノン風に扱われるのが目立つのもこの曲の特徴の一つと言えるでしょう。

弦楽合奏団エテルニータ メンバープロフィール

ヴァイオリン

青柳 敬子

宇都宮短期大学卒業。
増田貴子、星野和夫、吉村成司、鈴木鎮一の各氏に師事。
才能教育研究会宇都宮支部ヴァイオリン科指導者。

赤羽根 洋子

宇都宮短期大学卒業。同大学研究科修了。
在学中、吉村成司、故久保田良作、鷺見健彰の各氏に師事、
卒業後栃木県交響楽団発足時より20年在籍、現在上野
楽器にてY.P講師、ヴァイオリン講師。

片山 淑子

国立音楽大学卒業。
在学中、故 久保田良作氏に師事。卒業後、ソロ、室内楽
を浦川宣也氏に師事。アンサンブル「どるちえ」を結成し
小学校をはじめ道内各地にて演奏活動。1990年にリサイ
タルを行う。
札幌交響楽団に5年在籍。
後進の指導にあたっている(札幌在住)。

川俣 洋子

国立音楽大学卒業、同大学大学院修了。
岩本政蔵、井上武雄、鷺見健彰、鷺見四郎、石橋洋子、
梅津南美子の各氏に師事。
室内楽を青木十良氏に師事。
フリーの演奏家としてオーケストラ、室内楽等で活動の
他、後進の指導にあたっている。
アンサンブル・プリランテメンバー。

小松崎 倫子

武蔵野音楽大学卒業。宇都宮大学大学院修了。
故 鈴木史子、吉村成司、萩原耕介の各氏に師事。
栃木県交響楽団団員。宇都宮市立陽東中学校教諭。

篠原 香乃子

武蔵野音楽大学卒業。
モダンヴァイオリンを、故 永岡国雄、吉村成司、星野和夫、
掛谷洋三、桐山建志の各氏に、バロックヴァイオリンを
桐山建志氏に師事。
後進の指導にあたる他、バロック・ヴァイオリンデュオ「Due
Luce」等、フリーの奏者として活動中。

土屋 恵子

上野学園大学卒業。
増田貴子、吉村成司、竹内茂の各氏に師事。
上野学園ヴァイオリン教室講師を経て、現在自宅にて
後進の指導にあたっている。

福富 恵子

宇都宮短期大学卒業。
吉村成司、鷺見健彰の各氏に師事。
柿の木幼稚園ヴァイオリン講師、後進の指導にあたっ
ている。

山田 美津子

東京都立大学卒業。
ヴァイオリンを星野和夫氏に師事。

ヴィオラ

川沼 文夫

宇都宮短期大学、東京芸術大学別科卒業。
立花和夫、吉村成司、鷺見四郎、中塚良昭、鈴木鎮一、豊
田耕児の各氏に師事。
才能教育研究会宇都宮支部ヴァイオリン科指導者。
スズキアンサンブル「弦」メンバー

チェロ

荒川 育子

国立音楽大学卒業。
小野崎純氏に師事。後進の指導にあたっている。
室内合奏団、オーケストラ等でも活動中。

コントラバス

増山 一成

東京芸術大学卒業。ウィーン国立音楽大学に留学。
沖不可止、今村清一、江口朝彦、小野崎充、ルートヴィッ
ヒ・シュトライヒャーの各氏に師事。
読売日本交響楽団コントラバス奏者、東京ハルモニア
室内オーケストラ コントラバス奏者、宇都宮短期大学
附属高校音楽科非常勤講師。

エテルニータ顧問・解説

山田 栄二

1948年宇都宮市に生まれる。宇都宮短期大学作曲科卒業。
作曲を石黒脩三氏に師事。同短大と同附属高校の講師
を務めた後、1984年から作曲、編曲活動に専念。作品に
オペラ「ゆきと鬼んべ」「殺生石物語」「歌法師蓮生」「那
須野巻狩り」「小山物語」、オペレッタ「不思議の国のア
リス」、室内楽曲「博物誌」「動物園の情景」「フェアブル
昆虫記」、大正琴と語り手のための「手無し娘」など多数。
1999年県文化奨励賞受賞。

ステージマネージャー

小林 俊夫(日フィル)

団友

ヴィオラ 中村 淑江

エキストラ

ヴァイオリン 高橋 真二

ヴィオラ 松井 啓子 諸岡 涼子

チェロ 沖澤 直子 玉川 克